

平成30年度 学校評価シート

<学校経営方針の重点>

1 確かな学力の向上 2 心の教育の推進 3 健やかな体の育成 4 地域と共に歩む学校づくり

青梅市立吹上小学校

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策 (対応する学校経営案プロット)	評価(A,B,C,Dは%) 平均はA=4,B=3,C=2,D=1で算出			分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性		
				教職員	保護者	児童			評価	コメント			
1 学力の向上	基礎・基本を大切に、分かる授業を実現する。	学習規律の徹底と基礎的・基本的な知識・技能の習得させるきめ細やかな指導の実施	学習規律を徹底し、落ち着いた学習環境の下で、一人一人の児童の学習意欲を高め、個に応じた指導により学力の向上を図る。	A	6.7	38.0	46.8	教職員、保護者、児童とも概ね評価は高い。しかし、1割程度C,D評価なので、改善していく必要がある。	引き続き、落ち着いた学習環境の下で、一人一人の児童の学習意欲を高め、個に応じた指導を継続する。	A	前期より改善され、保護者児童とも8割以上がA・Bの評価とはすばらしい。子供たちの個別の評価をしっかりと見取って今後にかかしてほしい。	児童用アンケートの「落ち着いた学習に取り組んでいる」の項目にC(どちらかといえばあてはまらない)、D(あてはまらない)評価を付けた児童を把握し、学習意欲を高めるよう個に応じた指導を行う。	
				B	86.7	49.7	40.1						
				C	6.7	10.1	11.1						
				D	0.0	2.2	2.0						
				平均	3.0	3.2	3.3						
			重要教科を国語と算数に定め、授業改善プランを活用し、基礎学力と学び合う力を育て、より広い応用力を付ける取組を実践する。	A	0.0	37.4	(設問なし)	教職員の評価が大幅に良くなった。前期は、児童の学力を調査する場面が少なかったため、指導に不安を感じていたが、さまざまな評価を積み重ねていくことから手ごたえを感じてきているのであろう。	引き続き授業改善プランの見直しをし、実践できていないことを積極的に進めていく。「実践している」と自信をもってAを付けられるように、今後も研鑽に務める。	A	学校公開などで、掲示物や教員の指導を見ると、丁寧な仕上がりで、具体的な指示が出されていた。引き続き細やかな指導を求めたい。また、苦手な教科についても、伸ばして欲しい。	常に授業内容を反映した掲示物を意識し、古くなったら差し替えるようにする。 ・活動が混乱しないように、児童に分かりやすく、適切な指示をする。 ・児童一人一人の様子を把握し、個に応じた指導を心がける。	
				B	92.9	55.3							
				C	7.1	6.1							
				D	0.0	1.1							
				平均	2.9	3.3							
			学年の発達段階を考慮した学習課題(宿題)を出し、学ぶ意欲を高めるとともに「学年×10分」の家庭学習を奨励し、その習慣化を図る。	A	35.7	42.5	59.0	教職員、保護者、児童とも概ね評価は高い。しかし、1〜2割程度C,D評価なので、改善していく必要がある。	家庭学習の仕方や質について折にふれて指導する。保護者会等も活用し、保護者への啓発も行う。家庭学習の質や量について、教員間で情報交換を行う。	B	家庭学習は、いろいろな形態があり、「自主学習」に取り組ませることで内容の広がりを見せている。宿題で出されると、「やるものだ」という安心感を家庭では感じられる傾向もあるので、個に応じた的確なアドバイスもして、やる気や本当の学びを広げて欲しい。	家庭学習の習慣の定着に努めつつ、自主学習への意識付けを行う。	
				B	42.9	47.5	27.1						
C	21.4	9.5		10.4									
D	0.0	0.6		3.6									
平均	3.1	3.3		3.4									
2 思いやりの心や社会規範を身に付けた子供を育成する。	人権尊重の精神に則り人権教育の実践の充実を図るとともに、基本的な生活習慣を養い、社会規範遵守の意識を育てる。	「気持ちの良い挨拶」や「相手を思いやる言葉遣い」ができるように指導するとともに、異年齢集団活動を通して、いじめゼロに向けた好ましい人間関係を育てる。	A	13.3	38.0	28.7	教職員は、前期のB評価がA、C評価に移った。関わる児童で評価に差が出た。保護者は、A・B評価が90%以上で評価が高い。児童のC評価が増えた理由は、友達同士の関係が増えたこと、ふれあい月間で言葉遣いへの意識が高まったことが考えられる。	引き続き、教職員が率先して挨拶をする。反応の薄い児童には、さらに声をかけ、自分に挨拶されていることを自覚させる。保護者にも協力をお願いする。言葉遣いの乱れは、その場で指導し、思いやりのある言葉を教える。	B	地域では、子供側からの挨拶は少ない。しかし、こちらから声をかけると返してくれる。社会に出ても挨拶は大切であるので、しっかりと小学生の間に身に付けてほしい。保護者も教員も、大人が共に挨拶を交わすことが大切である。	大人がお手本となり、挨拶を交わす姿を子供たちに見せることで、挨拶のよさを伝えていく。保護者にも働きかけ、家庭でも挨拶が身に付くように協力をお願いする。		
			B	60.0	53.6	49.8							
			C	26.7	6.7	18.3							
			D	0.0	1.7	3.2							
			平均	2.9	3.3	3.0							
		生活指導月目標の周知や学校生活の約束等の指導を通して、ルールやマナーを遵守しようとする態度を育てる。	A	6.7	36.3	27.9	保護者の評価が高く、きまりを守っているという認識が分かる。しかし、C評価が増加している。教職員は、これまでの指導の成果を実感して評価が高いのでは。児童は、C、D評価が20%以上であり、課題意識は高いことが分かる。	廊下の右側歩行の定着のために、廊下の中央に印をつける。今後も、月初めに、全校朝会で月目標を児童に周知する。さらに高い目標を提示し、実践するように促していく。保護者会で学校の約束やきまりなどについて、全校で同じ内容を伝え、協力を仰ぐ。	A	廊下歩行については、PTAとも連携をして分かりやすく印を付けていってはどうだろうか。遅刻など少しずつ改善はされているが、家庭との連携がさらに望まれる。	児童の安全な廊下歩行への意識が高まるように、PTAの協力をいただき、廊下に印を付ける。家庭との連携を図り、引き続き遅刻など家庭生活の改善を進めていく。		
			B	80.0	55.3	51.4							
			C	13.3	7.8	17.9							
			D	0.0	0.6	2.8							
			平均	2.9	3.3	3.0							
		日々の道徳の授業の目標を明確にし、「特別の教科・道徳」の時間を工夫し、子供自身が自らを見つめ直すことができるようにする。	A	20.0	41.3	48.2	研究授業や道徳授業地区公開講座など、道徳の授業を検討する時間が増えたことで、自信をもって授業するようになった。ワークシートも各学年で一定ものを活用することになって、評価がしやすくなった。	今後分科会等で、道徳についての話し合う時間は減っているが、個人でも授業改善に努めていく必要がある。校内研究会を有効に活用する。	A	道徳は、教員が種をまき、家庭や地域で葉が出て育ち、広がりを見せる勉強である。子供たちを大切に育ててほしい。	来年度の校内研究も今年度に引き続き「道徳」を進めていくので、児童の心を育んでいけるように、児童の実態をしっかりとつみかみ、指導を工夫していく。 ・1回の授業でも変容を期待するのではなく、あせらず根気強く長期的な視野を入れながら指導する。		
			B	73.3	51.4	37.1							
C	6.7		6.7	10.0									
D	0.0		0.6	4.8									
平均	3.1		3.3	3.3									
3 安全・安心な環境を作り、心身ともに健康な体を育成する。	自ら運動に親しむ態度を養い、望ましい食習慣など心身共に健康的な体を育てる。	集団行動やマラソン・縄跳びなどの運動に粘り強く取り組み、健康でじょうぶな体作りに取り組む力を育てる。	A	26.7	49.2	59.1	1学期に行進練習・ラジオ体操することにより、体力や健康の意識を高めるだけでなく、集団行動や規律面でも意識させることができてきていると考える。体育集会ではICTを活用し、ポイントをわかりやすく伝えることで正しい身体の使い方を指導し、身体づくりに取り組む力を育てている。	引き続き、体育集会や授業を通して健康の増進・体力の向上について意識を高められていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	A	家では、縄跳びが大好きな様子が伝わってきている。運動会などの行事でも、団結して応援する様子に感動した。	体育集会を通じて、児童の運動への興味関心を高められるように工夫したり、運動量の豊富な体育授業になるよう活動の工夫をしたりする。授業や遊びの中で、児童の様子を賞賛したり、児童同士で励まし合ったりすることで、運動への意欲を高められるようにする。		
			B	60.0	46.4	23.8							
			C	13.3	4.5	10.3							
			D	0.0	0.0	6.7							
			平均	3.1	3.4	3.4							
		生活の見直しや食に関する指導及び安全指導(避難訓練を含む)を推進し、健康の保持増進と安全に対する意識を高める。	A	53.3	38.2	(設問なし)	前期は食育の実践が足りないため、教職員にC評価があったが、取組の成果により、教職員の評価が上がった。保護者の評価も、前期と同様に高い評価であった。	引き続き、いろいろな教科領域と関連付けて、食育の指導をすすめる。取組内容を保護者へ伝えていく。給食の時間に食への関心が高まる働きかけを続ける。食育だけでなく、睡眠時間など生活習慣全体への指導も取り組む。	A	食育は社会人になっても大切である。地産地消も意識して、指導に当たってほしい。家庭でも食を大切にして、スナック菓子など考えていってほしい。	給食指導時間などを活用して、その日のメニューに関する話をするなど、食への関心が高まるように工夫する。食育指導の後、家庭からコメントをいただくなどで関心を高めていく。		
			B	46.7	59.0								
			C	0.0	2.8								
			D	0.0	0.0								
			平均	3.5	3.4								
		4 特別支援教育について組織的に取り組み、充実を図る。	特別支援教育に関する研修会を通して、特別支援教育について共通理解を図り、組織的に取り組んでいく。	あおぞら学級と通常学級の児童間・教師間の交流や連携、ひまわり教室との連携を図り、障害に教える理解を深め、偏見や差別のない人間関係を育てる。	A	20.0	35.4	61.5	2学期になり、運動会や様々な行事を交流学級とご一緒することが増え、教員も児童も理解が深まっている様子が見える。児童の評価のDをつけている児童が減ったのも交流が深まったと考えられる。	あおぞら学級の子供達の自己紹介を取り入れていったのはよかったのではないかと。引き続き、行事だけでなく、普段の授業での交流も模索していく。	A	児童の評価がA・B評価が90%以上と高いので、徐々に浸透してきているのではないかと。一番思いやりにつながる大切な教育であるので、模索しながらも継続して指導をお願いしたい。	あおぞら学級がたちあがったばかりであるが、A,Bの高い評価を90%以上の児童が付けていることは、子供たち理解が深まっていることだと考える。理解したにより深く、共感できる心を育み、差別や偏見のない人間関係を目指していく。
					B	73.3	54.5	30.2					
C	6.7				6.7	6.3							
D	0.0				0.0	2.0							
平均	3.1				3.2	3.5							
学校全体で特別支援教育について共通理解を図るとともに、家庭・地域へ向けて特別支援に対する理解向上に努める。	A			13.3	30.9	(設問なし)	夏の特別支援理解研修を経て、共通理解が高まったと感じている教員が増えた。また、ちょっと研修での研修や生活指導夕会であおぞら学級の実態を伝えてきたのも理解が深まる要因になったのではないかと。	「あおぞら学級とは」とは、「ひまわり学級とは」ということで、二つの違いや、それぞれの学級での取組を学校便りやホームページで取り上げていく。	B	まだ、始まったばかりなので、地域となるとよく分からない面もある。学校公開や行事などで、子供たちの様子を見守ってほしい。	校内での研修体制をより充実させ、特別支援教育への理解をより深めていけるようにする。学校便りや学校ホームページでも特集する号などを設けて理解向上に努めていく。		
	B			60.0	30.9								
	C			26.7	7.9								
	D			0.0	1.7								
	平均			2.9	2.3								
5 地域と共に歩む学校づくり	学校・家庭・地域が一体となった開かれた学校をつくる。			課題を共有し、地域の人材や資源を活用した教育活動を展開する。	A	6.7	43.3	(設問なし)	教員、保護者ともにAB評価は昨年度とあまり変わらず、おおむね良いと思われる。しかし、自由意見にもあるように、ホームページの更新回数が少ないために、学校の情報が伝わっていない可能性がある。	学校便りや学年便りなどで情報発信を継続して行ってほしい。ホームページのアップロード方法が変わったため、内容や更新回数を検討していく。	A	保育園の行事などで卒園生、特に低学年がよく遊びに来て挨拶をしてくれ、吹上小学校の様子が伺える。学校だよりやホームページも参考に見ていきたい。	新規ホームページの内容を充実させつつ、学校便りやホームページを通して、学校での取り組みについて情報発信をしていく。
					B	80.0	50.0						
		C	13.3		6.7								
		D	0.0		0.6								
		平均	2.9		3.4								
		地域や外部の魅力ある力を積極的に取り入れ、地域の自然・文化・産業についての理解を深める活動を推進する。	A	13.3	44.4	(設問なし)	保護者には引き続き概ね高い評価をいただいた。外部人材を取り入れた場面が多かったため教員側評価も上がったと考えられる。	保護者のボランティアは、今後とも学年を超えての活用を図っていく。地域や外部の人材の活用については、さらに進められるように人材の整理を進め、必要な時に来ていただけるようにする。	A	他校と違い、吹上小学校のボランティアの方々がとても熱心に協力していただいている。地域の協力体制が万全で安心である。他の方々も地域人材でいらっしゃることで、発掘していかなくてはならない。体験型の学習も大切なので、ぜひ吹上地区の郷土学習も取り入れてほしい。	教育ボランティアやゲストティーチャーの方に、必要な時に来ていただけるように人材の整理を進め、人材リストを更新しつつ、さらに活用を進める。		
			B	60.0	51.1								
			C	26.7	3.9								
			D	0.0	0.0								
			平均	2.9	3.4								